

院大聖寺・法教部長兼教務課長 大藪照心様でございます。後ほどご法話を頂戴いたします。

さて、本日は早朝例会でございます。先ずもって、本席を設けて頂きました岩間部長様を始め職員の皆様方に心より御礼申し上げます。先程はご本堂でのご祈祷、またこちらでは筍ご飯をご用意戴き、「会員一同」大満足でございます。ありがとうございました。

えっ！筍ご飯に鶏肉、さあどうする？

今「会員一同」と申し上げましたが、実は私はその中に入っておりません。

先程来、私が初めて早朝例会に出席させていただいた折、筍ご飯を前にして、真っ青になって泣きそうな顔をしていたことを思い出しました。職員の方が「どうされましたか」とお尋ねになるので、白状しました。私は生まれてこの方、鶏肉を食べたことがありません。成田山の筍ご飯には一杯鶏肉が入っておりまして。しかし、私達僧侶には、「お斎（とき＝ご供養の食事）は残さず戴く」という厳しい戒律があります。困った挙げ句、こっそりティッシュを取り出して、鶏肉を取り出して包んでいるところを職員の方に見つかってしまったのです。鶏肉に触れることすらしたことがありませんので、きっと青ざめていたと思います。翌年から、私だけ白いご飯を頂戴するようになりました。いやはや、つままない前置きをしてしまいました。

共に真言宗智山派

さて、この成田山名古屋別院大聖寺様は犬山で唯一、寂光院と同じ真言宗智山派のお寺です。犬山にはお寺様が60ありますが、澤田さんの徳授寺様をはじめとする臨済宗妙心寺派のお寺様が半数くらい、あとは浄土真宗、日蓮宗、浄土宗でしょうか、真言宗のお寺はわずか3カ寺で、一つは薬師寺様ですが、こちらは真言宗豊山派のお寺で、「真言宗智山派」は寂光院とこの成田山大聖寺様だけでございます。犬山でこの2カ寺だけが今年1月25日京都親睦例会でお訪ねしました「智積院」を総本山とする真言宗智山派のお寺でございます。

真言宗十八本山

真言宗なら本山は高野山だろうとおっしゃる方もおありと思いますが、なるほど、高野山は空海弘法大師の祖山でございます。しかし、現在では真言宗は大きくは三つ、高野山金剛峯寺を本山とする「高野山真言宗」、京都の智積院を総本山とする「真言宗智山派」、奈良の長谷寺を本山とする「真言宗豊山派」です。ほかに、東寺、仁和寺、大覚寺、醍醐寺、善通寺など歴史と伝統と皇室との関係などで、現在18の本山がございます。

関東三山

さて、真言宗智山派の「総本山」は京都智積院ですが、もともと智山派の寺院は関東方面に多く、特に「大本山」が関東に3つあります。それを特別に「関東三山」と言っておりますが、大本山成田山新勝寺、大本山川崎大師平間寺、大本山高尾山薬王院でございます。こちらはその大本山成田山新勝寺の名古屋別院でござ

いますので、所属は真言宗智山派ということになります。

ということで、先程お護摩のお勤めをされていたお導師様はじめ僧侶の方々は皆私の大変親しい仲間でございます。ことのほか今日の卓話をされる大藪照心さんは僧侶の関係式の中で「法類」と申しまして、皆様方で言う親類みたいなもので一番近い間柄でございます。その大藪さんが、私が会長ということで特に今日はとっておきのご法話をされるとのことでございます。私もとても嬉しいです。本日も皆様よろしくお願い申し上げます。



その他委員会報告

◎次年度幹事（近藤 俊也君）

＝25・26年度地区研修・協議会＝

過日4月20日（日）地区研修・協議会にご出席いただいた皆様、お疲れ様でございました。

例会での報告は5月20日、27日に行いますので発表される方はご準備をお願い致します。

＝25・26年度第3回理事会&第2回クラブアッセンブリー＝

日時：5月20日（火）18：00～

場所：ホテルミュースタイル犬山エクスペリエンス

*対象の方には本日ご案内配布

○2760地区主催 春の親睦野球大会（RC野球同好会）

5月14日（水）豊田市運動公園野球場において、第2試合（19：15～20：45）に豊田中RCと対戦します。

ご興味のある方は是非応援にお越しいただけると嬉しいです。



☆職業奉仕担当 早朝例会

（安達 寛益 職業奉仕委員長）

お早うございます。本日は成田山にての例会です。

早朝より本堂にてご参拝いただきありがとうございます。これからは、法教部長兼教務課長 大藪照心様によるご法話です。

大藪照心様よろしくお願いいたします。

法 話

☆成田山名古屋別院 大聖寺

法教部 法教部長 兼 教務課長 大藪 照心 様



『仏さまの智慧について』

おはようございます。早朝からのご参拝誠に御疲れ

様でございました。本来朝護摩の導師は小豆畑主監がお勤めになるのですが、只今主監は本山に主監会議の為出向しておりまして、お手代わりにて私が導師をお勤めさせて頂きました。

先ほど松平会長よりご紹介いただきましたが、真言宗智山派は京都に総本山智積院がございまして、関東に成田山新勝寺・川崎大師平間寺・高尾山薬王院の三大本山がございまして、その新勝寺には全国に八つの別院がございまして、ここ大聖寺が成田山名古屋別院となります。私は大本山の新勝寺で中学入学から大学卒業までの十年間、学生でありながら修行期間として寮生活を送ってまいりました。大学卒業後、新勝寺で五年間法臘を重ねてまいりましたが、父が僧侶として席を置いておりましてここ大聖寺にお呼びいただき、現在に至るわけでございます。実は成田山には親子の僧侶が同じ寺院には在席できないという掟がございまして、父は私が十歳の時に遷化しており、十二歳で新勝寺に入寺してすぐに、当時の菱木主監より「いずれ名古屋別院に呼んでやるから」という有難いお言葉を頂戴し、その言葉通り、自坊のある愛知県に呼んで頂いたという訳でございます。

私は生まれが愛知県あま市の現在住職をさせていただいております地蔵寺という小さな寺の出でございまして、その地蔵寺のお寺としてのお仲間が松平僧正が御住職でいらっしゃる寂光院さまと同じ御法類となるのでございます。普段から大変お世話になっております松平僧正は、先ほど申し上げました京都の総本山智積院にて四十年に渡り宗派の専修機関で法話の授業を受け持たれてこられ、宗派に於いて法話ではこの方以上の人はいない、ご法話の第一人者なわけでございます。その方の目の前でお話することは大変恐縮至極なのでございますが、皆様のお耳をお借りし、お時間を頂いて精一杯お話をさせていただきますので、どうか宜しくお願いを致します。

さて今日は“仏さまの智慧”についてお話をさせていただきます。

散った桜の花が諸行無常を感じさせる今日このごろではございますが、「諸行無常」とは「諸法無我」「涅槃寂靜」と併せて「三法印」といい、すべての現象・物質には永遠は無く終わりがあり、ゆえに自己はというものは無く、それを理解すれば煩惱の炎が吹き消された静かなる境地に至れますよ、という仏教の基本理念であります。仏教徒であるということは仏を目指すことであります。人であるかぎり誰しもが仏となる可能性を秘めています。ですからまず自分が仏に成れることに気づき、仏を目指して一步一步進んでいこう。と言うのが仏さまの教え、仏さまの智慧なのです。

仏教を初めてこの世にもたらしたお釈迦さまは、今から2千5百年ほど前に現在のインド北部シャカ国の王子としてお生まれになりました。本名はゴータマ・シッターラダと申します。シャカ国は小さな国ではありましたが、お釈迦さまは王子として、老・病・死に触れられないよう宮殿から出ることなく箱入りでお育ちになりました。あるとき宮殿の四方にある門から

出て、老病死に遭遇します。それまで老病死という苦から遠ざけられていただけに世の無常を感じ、最後の門から出た時に出家者と出会い、ご自分も出家を決意されました。当時の出家者は苦行を行います。自分の身体を痛めつけることが覺りに通ずると信じられていたからです。お釈迦さまも断食を中心とした苦行を行い死を目前とした時、苦しみの極みのような偏った状態では悟ることは出来ないと、村娘のスジャータさんからいただいた乳粥で体調を整え、菩提樹の下で禪定に入り、「こだわり」や「かたより」や「とらわれ」のない真実をあるがままに受け止める境地にて、悟りを得ることが出来たのです。仏教ではこの偏りのないナチュラルな状態を「中道」といい、中道を保つことが仏に近づく、さらに仏に成るための仏道であると説きます。

ですから四季のある日本では昼夜の長さが均等な秋分春分の日に合わせて彼岸会が行われます。ご先祖に手を合わせ自分自身を見つめ直すことにより、煩惱や物質の世界である此の岸から仏の世界である彼の岸へ少しでも近づきたいという信仰のあらわれです。

お釈迦さまは三十五歳で悟りを得てから四十五年間その悟りを説き続け、八十歳にて入寂なされたのでございますが、その後、十大弟子を筆頭に弟子等による話し合いの場が持たれます。お釈迦さまの教えの確認とともに、教団維持のために戒律が作られます。何回か話し合いを重ねるうちに戒律はどんどん増え厳しくなっていきます。そして戒律を守った出家者のみが悟ることが出来るという「上座部仏教」になっていきます。戒律にがんじがらめになった教えに異を唱え始めたのが「大乘仏教」です。インドからシルクロードを経て中国・朝鮮半島より日本に入ってきた仏教はそのほとんどが大乘仏教です。我々大乘から見れば上座部は「小乗仏教」となります。今でもスリランカなどインドより南方には小乗仏教が存在します。大乘にも戒律は存在しますが人としてまっとうに生きるのに必要な戒律のみです。現在でも小乗仏教の戒律には“はて”と首をかしげたくなるものがあります。たとえば、僧侶は自動車を運転してはならないという戒があります。虫を跳ねたり潰してしまったり、もしかして飛び出してきた動物を轢いてしまったりする可能性があるからなのかもしれません。でも人が運転する車に乗るのは許されています。運転する方に罪を肩代わりしてもらうという事でしょうか。また果物は傷ついたものだけしか口に出来ないという戒があります。ではどうするかというと、果物を渡す方に目の前で傷つけてもらってからいただいたりするのです。なんだか変ですよね。

ですから小乗仏教では戒律を守らない人や僧侶以外の人、また女性は悟れないとされています。それに対して大乘仏教の経典の中には、僧侶以外の一般の方や女性が主人公の経典があり、十大弟子をやりこめて菩薩との問答に対等に渡り合ったりいたします。どんな方でも悟りを得る可能性を秘めている。だから大きな乗り物に乗って皆で仏の世界を目指そうよと言うのが日本の仏教。大乘仏教なのです。

でも、大乘仏教としての理念は同じでも、日本の仏

教には十三の宗と五十六の派があります。宗は大きくくりで派はそれぞれの宗の派閥ということになります。ここ成田山は真言宗で十三宗の内の一宗です。真言宗には十八本山があり、五十六派の内十八派が真言宗となります。成田山は智山派に属します。どうして沢山の宗派があるのかというと、それぞれに信じる仏、悟りへのめざし方があり、その違いから宗派が興る訳でございます。

たとえば、「浄土宗」や「浄土真宗」では沢山いらっしゃる仏さまの中でも阿弥陀さんが最高！という教えです。阿弥陀さんが「私を信じ、私の名前を唱えれば、死後、極楽浄土にもれなくお連れします」という誓いをお立てになっているからです。ですからひたすら「南無阿弥陀仏」とお唱えする「専修念仏」を行います。多神教の中の一神教と言ってしまっても良いぐらい阿弥陀さまにすべてお任せする、「他力本願」の考え方です。

「禅宗」ではお釈迦さまがそうであったように禅定に入って悟りを得ようという宗派です。初期の仏教に一番近いスタイルです。とはいえ同じ座禅でも代表的な「臨済宗」と「曹洞宗」では大きく違います。見た目の違いとしては、臨済宗は壁を背にして座り、曹洞宗では壁に向かって座ります。同じ座禅ですが臨済宗は師の出した公案をひたすら考え尽くす公案禅で、有名な一休さんは臨済宗の僧侶です。曹洞宗は「只管打坐」といい、ひたすら座し、心を無にするのです。そういった意味では同じ座禅でも大きく違います。また、「黄檗宗」は日本に入ってきたのが江戸時代と遅かったこともあり、非常に中国色の強い禅宗です。仏像も建築も読経も中国式です。宗風としては臨済禅で、念仏も取り入れているのが特徴です。

「日蓮宗」は「法華経」最高！という教えです。ですから「南無妙法蓮華経」とお題目をお唱えし、独特の字でお題目が書かれている掛け軸をご本尊としています。我々真言宗でも法華経の一部である観音経をお唱えいたしますが、一部ではなく法華経に帰依することが最高の悟りへの道と信ずるのが日蓮宗です。

「天台宗」は平安時代初期に入唐した最澄が興した宗派で、当時唐に伝来していたあらゆるタイプの仏教を日本に伝えたので、鎌倉時代には浄土宗の法然、浄土真宗の親鸞、臨済宗の栄西、曹洞宗の道元、日蓮宗の日蓮など、各宗派の開祖が比叡山延暦寺で修行した後に、自分の信じる仏教のスタイルを以て独立しています。ですから天台宗は「日本仏教の母山」と言われたりします。

我が「真言宗」の開祖弘法大師空海上人は、最澄さんと同時代の方で、同じ船団で唐に渡っています。しかし、朝廷より多くの仏教を学んでくる使命を受けて入唐した最澄さんとは違い、空海さんは当時最新の教えであった密教の総てを伝承され、日本へとお伝えになりました。最澄さんも密教はお伝えにはなりましたが、多くある仏教の一つとして一部をお伝えになられたのです。ですから真言密教を「純密」、真言宗からすると天台密教を「雑密」と言ったりします。密教とは秘密仏教の略で、秘密の教義や儀礼を師僧から弟子

の間のみ伝承していく仏教で、出家から段階を踏んで修行を行い、この世において仏となる「即身成仏」を目指します。最澄さんが素晴らしいのは自分より立場もなく年下の空海さんを、密教においては師とされたことです。それだけ最澄さんも密教の教えに対して純粋な思いがおありになったのでしょう。

かのごとく、多くの宗派がある仏教ですが目指すところは成仏、仏と成ることです。亡くなった後に仏の世界に転生するのか、自己を磨いて悟りを得るのか、仏の教えが書かれた經典により自己を高め仏となるのか、人として生きてきた中で曇ってしまった仏心を、磨き直して生きながらにして仏と成るのか、欲と物にまみれた此の岸から仏の境地である彼の岸をめざし歩を進めていくのが仏道であり、その為の智慧が詰まっているのが經典です。漢文や梵語で書かれているお経を理解するのは難しくもありますが、お経を読むこと事態が尊い行為なのです。私にはこんな経験があります。

私は教誨師をしております。名古屋拘置所の教誨師ですから未決の方、結審後の移送前の方、死刑囚の方、結審後に未決者や受刑者の生活の面倒を見る為に拘置所に残っている方、色々な立場の方の教誨を受け持つこととなります。もう今年で十二年目になります。

三年目に教誨したある未決の方がいました。ちなみに未決者との教誨は基本的には一对一の個人教誨になるのですが、私服で髪型も自由ですから一目見て未決の方と分かります。彼には身体的な特徴がありました。全身にタトゥーを入れていたのです。別に全身を見たわけではありませんが、手の指の先や襟もとまでタトゥーが入っていたので、全身にタトゥーが入っていることは容易に想像できました。私が驚いたのが彼の入れたタトゥーを見るとその多くが梵字だったのです。梵字は密教で使用する古いインドの言葉、サンスクリット語を書く時に使用する文字で、その文字自体が仏さまを意味する場合があります。たとえば成田山の本尊不動明王なら「カンマン」と読むその文字自体がお不動さまであり、真言宗で大切に読まれる真言も、サンスクリット語でお唱えします。彼にその事を知って真言宗の教誨の願い書を出したのかと聞くと、偶然だといいます。意外な縁を感じつつ未決のまま月に一回の教誨を数度行い、経を読み、説法をし、梵字のなんたるかの話しもしました。何度目かの教誨の時、教誨室に彼は囚人服を着て頭を丸刈りの状態で入ってきました。結審し行く先の刑務所が決まったのです。最後に彼は「じゃ先生まだどこかで」というので私は「拘置所以外でな」といい別れました。

それから七年ほど後、個人教誨に彼が現れました。囚人服に丸刈りでしたので、結審し行く刑務所も決まった後の教誨でした。「あ、先生お久しぶりです」「おー、久しぶり七年ぶりか。てゆうか何でまたここで会うんだよ。ダメじゃないか」「前の教誨は二度目で今回は六度目、全部薬です」こんな会話で教誨は始まりました。今、死刑囚は別として受刑者の多くは麻薬で刑に服する人が本当に多いんです。そして薬がらみは再犯がとて多いのも特徴といえます。久しぶりで話

○2025 学年度米山奨学生オリエンテーション

4月10日(木) ホテルメルパルク名古屋において2025 学年度米山奨学生オリエンテーションが行われ新規米山奨学生アディカリ ボ ハラ プジャさん、25-26 年度福富会長、近藤幹事、カウンセラーの安達寛益さんが出席されました。



○犬山 RC 同好会ゴルフ部だより

第192回ゴルフコンペは、令和7年4月23日(水) 犬山カンツリー倶楽部にて、丹羽敬昇君シングルコンペと同日開催させて頂きました

参加された皆様ありがとうございました。丹羽敬昇さんおめでとうございます。

次回第193回は、7月9日(水) 犬山カンツリー倶楽部にて多くのご参加お待ちしております。



○2760地区主催 春の親睦野球大会(RC野球同好会)

5月14日(水) 豊田市運動公園野球場において、当クラブ野球同好会が第2試合(19:15~20:45)に豊田中 RC と対戦。見事勝利しました！

世話人の豊田西 RC よりご報告いただきました。

国際ロータリー 第2760地区ガバナー 吉川公章様
地区世話人代表・副代表・世話人殿
各RC野球同好会殿

令和7年5月16日

世話人代表 小幡輝雄(豊田西RC)

<第2760地区春の親睦野球大会結果報告>

第2760地区春の親睦野球大会が去る5月13日(火)・14日(水) 豊田市運動公園野球場において、天候にも恵まれ予定通り開催されました。このように開催できますのもガバナー始め、多くの皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

以下、試合の結果を報告させていただきます。

=試合結果=

5月13日(火)

第一試合 豊田東RC 5対5 名古屋宮の杜RC



5月13日(火)

第二試合 豊田RC 5対8 名古屋中RC



5月14日(水)

第一試合 豊田西RC 1対6 名古屋瑞穂RC



5月14日(水)

第二試合 豊田中 RC 4対5 犬山 RC

